

商品別見直し(輸出)

2020年12月3日(木)

品目	2019年度 (実績)		2020年度 (見込み)				2021年度 (見直し)		コメント				
	10億円	伸び率%	上半期 (実績)		下半期 (見込み)		10億円	伸び率%	伸び率%				
			30,910	▲19.2%	36,701	▲2.5%					67,612	▲10.9%	
総額	75,880	▲6.0%	30,910	▲19.2%	36,701	▲2.5%	67,612	▲10.9%	↑	73,389	+8.5%	新型コロナウイルス感染症の影響による世界的な経済縮小により、幅広い品目で輸出減が記録される。輸出総額を大きく押し下げる品目は、輸送用機器、原料別製品、一般機械など。	20年度に大幅な輸出減となった輸送用機器、原料別製品、一般機械などが増加に転じる。ただし、一般機械の輸出は19年度と同水準に回復するが、輸送用機器、原料別製品の輸出はそれぞれ19年度の水準には回復せず。
EX 01 食料品	745	▲1.3%	384	+4.1%	394	+4.9%	778	+4.5%	↑	786	+1.0%	コロナ禍による外食落ち込みが重しになるも、果実・野菜を中心に肉食向けの需要が下支えとなり、19年度を上回る水準で推移。魚介類は中国での輸入水産物へのPCR検査義務化などもあり19年度を下回る。	魚介類はコロナ禍による落ち込みから持ち直し。30年までに農林水産物・食品輸出額5兆円達成を目指す政府の輸出支援も後押しとなり、全体としても20年度を上回る。
EX 02 原料品	1,043	▲8.3%	453	▲13.6%	510	▲1.9%	962	▲7.8%	↑	1,036	+7.7%	金属鉱及びびくず：コロナ禍による製造業低迷で鋼材相場軟調。中国持ち直しで20年度下半期は数量・価格ともにやや回復も19年度を下回る。 生ゴム：自動車産業の低迷によるタイヤ需要減で19年度を大きく下回る。 織物用繊維及びびくず：アパレル業界低迷が繊維産業全体を下押し。マスク、フィルター向け不織布などは伸びるも影響は限定的。	金属鉱及びびくず：経済全体の持ち直しにより20年度から増加。 生ゴム：自動車産業の持ち直しに伴いタイヤ需要は拡大するも19年度水準には届かず。 織物用繊維及びびくず：経済全体の持ち直しにより20年度から緩やかに増加。
EX 03 鉱物性燃料	1,349	▲0.9%	265	▲61.7%	284	▲56.8%	549	▲59.3%	↑↑	644	+17.3%	新型コロナウイルスの影響による原油価格の下落、海外のガソリン、軽油などの石油製品需要の落ち込みにより大幅減。	原油価格の上昇を主因に増加。
EX 04 化学製品	8,692	▲2.6%	4,036	▲7.5%	4,198	▲3.0%	8,234	▲5.3%	↑	8,852	+7.5%	石油化学製品(有機化合物+プラスチック)の海外需要は中国をけん引役に回復が持続する。さらに下半期はインド向けなどの回復や日本の輸出余力の高まりが加わり数量は20年度上半期に比べ増加する。無機化合物は、20年度末に向けて持ち直す、世界的に設備投資の回復が遅れる影響で工業製品向けの需要回復が遅れる。精油・香料及び化粧品類と医薬品は高品質な日本製に対する需要を支えに増加を続ける。	石油化学製品の価格は原油価格と連動して上昇に転じるが、一方で、米国や中国を中心とする生産能力の拡大が上値を抑える。無機化合物、そして、精油・香料及び化粧品類や医薬品は緩やかな増加が続く。
EX 05 原料別製品	8,408	▲6.3%	3,471	▲18.6%	3,551	▲14.3%	7,021	▲16.5%	↑↑	7,837	+11.6%	原料別製品は全体として19年度から減少する見直し。19年度の水準が低かった反動もあって価格上昇の影響が大きい非鉄金属以外では、主要な品目で軒並み19年度割れ。	原料別製品全体は、20年度から増加するものの、19年度水準を下回る見直し。非鉄金属は2年連続の増加となる一方で、その他の主要な品目は20年度から増加も、その回復ペースは鈍い。
鉄鋼	3,105	▲7.0%	1,181	▲25.6%	1,129	▲25.6%	2,310	▲25.6%	↑↑	2,553	+10.5%	下半期の数量はASEAN・韓国向けの回復が限定的であり、価格も横ばいを推移するため、輸出額は上半期から伸び悩む見直し。	数量は20年度から反動増や自動車向け輸出の回復が期待される一方、価格は緩やかな回復にとどまるため、金額は回復傾向も19年度水準を下回る見直し。
非鉄金属	1,412	▲3.2%	779	+13.9%	786	+8.0%	1,565	+10.8%	↑	1,706	+9.0%	銅：数量は上半期から横ばいを推移、価格は19年度の水準が低かった反動もあって上昇、輸出額は19年度を上回る見直し。 アルミニウム：数量は上半期に落ち込んだ自動車向けなどで持ち直し、価格も緩やかに上昇することで、20年度下半期の輸出額は19年度下半期並みを回復する見直し。	銅：景気回復から数量は底堅く推移し、価格も緩やかに上昇するため、輸出額は20年度から増加する見直し。 アルミニウム：数量は引き続き自動車向け・中国向けを中心に回復し、価格も需要増に伴い緩やかに上昇するため、21年度の輸出額は19年度水準を回復する見直し。
織物用糸・繊維製品	701	▲3.7%	266	▲24.4%	293	▲16.0%	559	▲20.3%	↑↑	632	+13.0%	世界景気の後退に伴い、上半期を中心にスマートフォン向け、自動車向け、衣料品向けをはじめとした幅広い商材が落ち込み。	世界景気が持ち直すなかで増加に転じる。特に、電子機器・部品に用いられる高機能素材、抗菌・抗ウイルス素材などが寄与。
非金属鉱物製品	823	▲8.8%	343	▲19.5%	363	▲8.6%	706	▲14.2%	↑	769	+8.9%	ガラス及び同製品：コロナ禍で数量・価格ともに19年度を下回る。 セメント：コロナ禍による世界的な工事減少などによる需要減で19年度を下回る。 真珠：コロナ禍による展覧会などの見送りで19年度を大きく下回る。中国の経済回復に伴い下半期はやや持ち直し。	ガラス及び同製品：世界的な経済活動の持ち直しに伴い反動増。 セメント：世界的な経済活動の持ち直しに伴い反動増。 真珠：展覧会などの再開と中国の経済回復で前年から反動増するも、19年度には届かず。
ゴム製品	871	▲4.0%	314	▲30.8%	348	▲16.8%	662	▲24.1%	↑↑	783	+18.4%	6割超を占めるタイヤを中心に、減少幅を大きく広げる。タイヤは、世界的な外出制限・自粛に伴う自動車の販売・利用の減少を受けて、数量が大幅に落ち込み。また、中国メーカーの急速な生産回復もあって需給が緩むなかで、価格の下落傾向が持続。	大幅増に転じる。世界の経済活動が正常化に向かうなかで、タイヤ需要が新車用・買い替え用ともに持ち直すことが主因。ただし、19年度の需要水準には届かず、需給の緩みに伴う価格下落基調は続く。
EX 06 一般機械	14,627	▲10.3%	6,032	▲19.0%	7,452	+3.8%	13,484	▲7.8%	↑	14,633	+8.5%	新型コロナウイルスの収束がまだ見通せないなか、企業の設備投資意欲は慎重化しているものの、デジタル化対応などの需要が下支えし、下半期は緩やかな回復に向かう見込み。	新型コロナウイルスの影響により停滞した企業の設備投資意欲も徐々に持ち直していくとみられるほか、高効率製品への更新需要などもあり、緩やかな回復が続く見直し。また、デジタル化対応などの需要は引き続き、好調を維持する見込み。ただし、環境規制の高まりなどを受けた石炭火力需要の減少傾向は続き、下押し要因となる見直し。
原動機	2,649	▲10.0%	912	▲31.9%	1,448	+10.5%	2,360	▲10.9%	↑	2,504	+6.1%	新型コロナウイルスの影響に加えて、環境規制の高まりもあり、石炭火力向けの需要などが厳しく、下半期の回復も限定的となる見直し。	新型コロナウイルスの収束後も環境規制の厳格化が進むなかで弱い動きが続く見直しも、高効率製品への更新需要などが下支えするとみられる。
EX 07 電気機器	13,254	▲4.9%	6,017	▲8.7%	6,840	+2.7%	12,857	▲3.0%	↑	13,630	+6.0%	新型コロナウイルスの影響による生産活動停滞を受け、電子部品などの需要減、米中貿易摩擦による一部設備投資の抑制もあり、上半期は19年度比減少となった。操業度回復が鈍かった各国においても生産再開し、サーバー市場が堅調ななか、下半期は19年度比で増加となるものの、年度としては若干の減少の見直し。	データセンター需要の急増を背景としたメモリー半導体投資の回復や、5G対応端末や通信インフラ向けの半導体関連部品の需要増もあり、20年度比で増加となる見直し。
半導体等電子部品	4,092	+0.3%	2,016	▲0.4%	2,083	+0.7%	4,099	+0.2%	↑	4,343	+6.0%	新型コロナウイルスの影響による生産活動停滞を受け、電子デバイスを中心とした部品需要が減少していたが、生産活動の再開に伴い19年度比で微増となる見直し。	5Gおよび通信インフラ関連部品の需要増や車載デバイス部品の回復などから、20年度比で増加となる見直し。
電気計測機器	1,617	▲6.8%	710	▲11.5%	826	+1.4%	1,536	▲5.0%	↑	1,582	+3.0%	新型コロナウイルスの影響や米中摩擦による投資抑制を受け上半期は大幅に減少。データセンター需要を背景に20年後半からは、メモリー投資も回復基調となるが、年度としては減少となる見直し。	データセンター需要の急増を背景としたメモリー投資に加え、ロジック・ファウンドリーにおける投資も継続し20年度比で増加となる見直し。
EX 08 輸送用機器	17,708	▲5.7%	5,808	▲34.9%	8,608	▲2.0%	14,416	▲18.6%	↑	15,750	+9.3%	自動車関連はコロナ禍で主力の米国や欧州向けが失速、下半期は回復基調も、上半期落ち込みを挽回できず。船舶もコロナ禍や中国・韓国との競争激化および世界的な気候変動対策の不透明感などで大幅減少。	自動車関連は主力の米国や欧州向けが回復基調も、19年度水準には戻りきらず。船舶はコロナ禍による先行き不透明感などで減少基調が継続。
自動車	11,744	▲4.3%	3,802	▲35.8%	5,448	▲2.1%	9,250	▲21.2%	↑	10,400	+12.4%	コロナ禍で主力の米国や欧州向けが失速、下半期は回復基調も、上半期落ち込みを挽回できず。	主力の米国や欧州向けが回復基調も、19年度水準には戻りきらず。
自動車の部分品	3,519	▲10.6%	1,153	▲34.9%	1,740	▲0.4%	2,893	▲17.8%	↑	3,150	+8.9%	コロナ禍で米国向けなどが失速、中国向けが回復も、他市場の落ち込みを挽回できず。	主力の中国向けに加え、米国や欧州向けが回復基調も、19年度水準には戻りきらず。
船舶	1,412	▲1.2%	509	▲29.5%	470	▲31.9%	979	▲30.7%	↓↓	876	▲10.5%	中国や韓国の造船会社との激しい価格競争や30年の温室効果ガス削減目標に向けた環境対策の先行き不透明さなどを背景に、大幅に減少。	新型コロナウイルスの影響で先行き不透明、かつ商談も滞っており、足元の受注残は1年程度という厳しい状況。受注から引き渡しまで1年半〜2年であることを踏まえると、20年度からさらに減少となる見直し。
EX 09 その他	10,055	▲4.4%	4,445	▲12.1%	4,864	▲2.6%	9,309	▲7.4%	↑	10,220	+9.8%	金輸出の増勢が続くが、品目全体では海外経済の落ち込みに伴い減少ペースが強まる。	金輸出の増勢は一服するが、品目全体では海外経済が持ち直すなかで底打ち。
科学光学機器	2,123	▲5.5%	931	▲12.0%	980	▲7.9%	1,911	▲10.0%	↑	2,026	+6.0%	新型コロナウイルスの影響により欧米向けを中心に低迷も、輸出先として約4割を占める中国の回復が下支え、19年度比1割減にとどまる。	世界貿易、主に中国およびASEAN諸国をはじめとする経済の持ち直し。また5Gスマホ需要の高まりにより、19年度水準近くまで回復。

*2020年度上半期の実績は確報ベース、金額は表示単位未満を四捨五入しているため計算が合わないことがある。

*「↑」は前年度比増加、「↓」は減少、「↑↓」は横ばい(前年度比±1%未満)を表している。